

令和7年3月6日

令和6年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	江東区立第五砂町幼稚園
所在地	江東区東砂7-5-27

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

土

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など）

本園の園庭には泥場があり、土や泥はこどもたちにとって身近な遊びの素材である。こどもたちが土や泥を取り入れて遊ぶ中で感触や解放感を味わいながら自己を発揮し表現力を高めるとともに、土や泥の様々な現象や特性について興味や関心を高める。

2. 活動スケジュール

月1回程度/令和6年9月から令和7年3月まで

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【土との関わり】

- ・幼児たちが「泥って気持ちいい！」「もっと触れたい」と思い、ダイナミックに遊べるように泥場の土を荒木田土に入れ替えた。この土の特徴は田植えをする時の泥と同じくらいトロトロしているところである。
- ・幼児が自分で調整しながら土に水を加え、水の量によって土から泥になっていく様子に気付いたり試したりできるよう、少量ずつ水を加えられるように計量カップとたらいに四分の一程度の水を張っておいた。
- ・一人一人が自分なりのペースで土と水との関係を探求できるように、約1m四方の泥粘土板を泥場のそばに用意した。
- ・泥の変化など翌日からの活動につながるように十分に楽しんだ泥を個別に残しておけるトレイを用意し、幼児の目につきやすい場所に置いておく。

【土粘土との関わり】

- ・土粘土の活動に詳しい講師の招聘
- ・40kgの土粘土、大きな塊と小分けにしたもの。
- ・ダイナミック目づ集中して土粘土に関わるように保育室全体にシートを敷いて行う。
- ・粘土を切るようにタコ糸、塊の粘土をすりおろすためのおろし器、粘土ベラ、ふるい、泥水で絵を描くための筆と白と黒の画用紙、粘土を投げて遊ぶ用のアクリル板などを用意した。

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

【土との関わり】

- ・幼児が遊ぶ前に掘り起こし水を少しかけて湿った状態の荒木田土はフワフワで足の裏で土を踏んだ感覚や触った感覚がとても気持ちよく幼児たちも水がない状態でも「気持ちいい」と大興奮だった。水を入れると田んぼの泥のようにトロトロで幼児たちもその感覚が大好きで体や服に泥がつくことを気にすることなくダイナミックに遊ぶ幼児が増えた。また、終わろうとしても「気持ちいいからまだまだ遊んでいたい」と言って泥場から出てこないことがよくあった。
- ・自分で調整しながら計量カップに水を入れて土にかけることで土から泥に変わっていく様子に気が付いたり、水をかけると土や泥の形が変わっていく面白さを楽しんだりしていた。また、トロトロの泥に足が吸い込まれる感覚や手や腕にバックのように付けて伸ばすことを楽しむ幼児もいた。
- ・翌日の泥の形が変わる不思議さが感じられるようにするために、トレイに泥を入れておいておいた。トレイの全面に敷き詰めたトロトロの泥が翌日にはカチコチに固まり、ひびが入っていることに幼児たちは「なんで？」「どうしてこんなにカチコチになっちゃったの？」「パズルみたになってる」「硬くて叩いても全然割れない」と驚きを隠せなかった。教師が「なんで固まったんだと思う？」と問いかけると「太陽に当たったからだと思う」「水が全部なくなったからだと思う」と幼児なりになぜ水がなくなり固まったのか、自ら考え答えを導き出そうとしていた。教師が「固まった泥に水をかけたらどうなるのかな」と呟くと「また泥に戻らと思う」と予想していた。翌日、バケツに半分程度水を入れ、小さい計量カップを用意しておいておくことが付いた幼児がすぐに自分のトレイを持ってきて水をかけ始めた。最初は固まった泥に変化はあまり見られなかったが、水が全体に浸みわたってくると急に形が変化し、幼児も「すごい！泥になった！」と変化に気が付いていた。水をかけすぎると茶色い水になってしまったが、少量かけては触ってを繰り返していた幼児はバターのようなトロトロの気持ちいい形状の泥を作り、指先でその泥に触れたり、伸ばしたりすることを楽しんでいた。泥一つでも水をたくさん入れて泥がシャバシャバの状態になりその中に手を入れ、手全体で触れることを楽しむ幼児もいれば指先で滑らかな泥を触れることを楽しむ幼児もいた。

【土粘土との関わり】

- ・目の前にある大きな塊や小さな塊に分けられた土粘土を見て、幼児が自分で遊びたい場所を選んで遊び始めた。友達と想いを伝え合いながら土粘土に触れる幼児もいれば、一人で黙々と集中して土粘土に触れる幼児もいた。集中して遊んでいる幼児には声をかけず、一人の世界を楽しめるように見守った。タコ糸を使って大きな塊を切れることや霧吹きやバケツで土粘土に水をかけると形や感触が変わることを知り、驚く幼児が多数いた。
- ・アクリル板に向かって丸めた土粘土を投げるコーナーでは同じように投げているのにくつつく時と当たってもくつつかず落ちてしまう時があることに「どうして？」「大きさかな？」「ここの粘土ならいいのかな？」と驚きつつ、どうしたらくつつくのか自分なりに考え、試していた。
- ・乾燥した土粘土をおろし器で黙々とすりおろすコーナーでは、粉がどんどんでてくることや大きかった塊がどんどん小さくなっていく形状変化を楽しんだり、おろした粉を紙コップに移し、水を加えることでまた粘土の戻ることに気が付いていた。
- ・水を入れて粘土を溶かしたものに筆を入れ、黒や白の画用紙の上で筆を滑らせると模様がかけることに驚いていた。

＜活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり＞

【土や泥に触れた時の幼児の声】

- ・「すごい！土の形が変わってく！」

→水をかけ続けると土の形が変化していく際に驚いていた。

- ・「バターみたい」（パンにバターを塗るときのような滑らかさのある泥に触れた時）

→自分で作った泥団にバターに見立てて塗って遊んでいた。

- ・「アイスみたいに気持ちいい」

→なめらかアイスという幼児が家庭で食べているアイスの中身に似ていたため。

- ・「太陽がたくさん当たったからじゃない？」「水がなくなったからだと思う」

「なぜカチカチになったのか」という教師の問いに対して幼児が出した答え。

【土粘土に触れた時の幼児の声】

- ・塊の土粘土を削る際、無心になってただひたすら削り続けていた。

→削る時の気持ちよさ、どんどん粉になる不思議さ、どんどんなくなっていく面白さなど幼児なりに感じて楽しんでいたので無言で削ることを楽しんでいた。

- ・「すごい！くっついた！」「なんでくっつかないの？」（土粘土をボールに見立てて投げた際）

→投げてもくっつく時もあればくっつかない時もあった。くっついた喜び、同じように投げているのにくっつかない不思議さを楽しんでいた。

<活動の様子>



トロトロの泥を足の裏
で感じている様子



泥に水をかけ、
伸ばしている



なんで固まったの？



手全体で泥の感触を味
わっている

バターみたい！



くっつく時とくっつかない時
がある！なんで？

友達と話しながら個々に
土粘土の感触を探索する



固まった土粘土を
黙々削る



5. 振り返り

(振り返りによって得た保育者の気づき)

・感性を育てる

「すごい！」「楽しい！」という短い表現が多かったが、どんなところがすごいと感じたのか、何に対して楽しいと感じたのかを体験を通して具体的に言葉に表すようになった。

・友達とのかかわり

一人で安心して自分のやりたいことを楽しむところから、泥との関わりを通して「○○ちゃん見て！」「これ気持ちいいよ、触ってみて！」と、友達に自分なりに言葉で伝えようとする姿が見られるようになった。それに対して「ほんとだね！」「気持ちいいね」と自分なりに応えようとする姿もあった。

・問いをもち、自ら考え、発見する。

前日にトイレに泥と水を入れておいて置いた時、次の日になると「たくさん水があったのになくなってる。「なんでだろう？」と疑問をもち、「どうしてだと思う？」という教師の問いかけに対し、「太陽がたくさん当たったから水がなくなっただと思う」と自分なりに考え答えを見つけようとしていた。このように自ら「なんで？どうして？」という問いをもち、自分なりに考え答えを導き出そうとしている。

・主体的に関わる

最初が汚れることが嫌で泥に積極的に関わろうとする幼児は少なかった。だが、回数を重ねて水をたっぷり含んだ泥の気持ちよさに気付いたり、水の量によって形が変化する面白さや時間が経つと固まったりする不思議さに幼児が自ら気付き、自分から関わるようになった。幼児にとって泥は驚き、喜び、楽しさなどたくさんの心を動かす、とても魅力的な存在となったからこそ、主体的にかかわるようになった。

以上